

授業のポイント

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うために、「考え、議論する道徳」の授業を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることが大切です。

次の4つのポイントを意識して、「考え、議論する道徳」の授業を構想しました。

- | | |
|-------------------------------------|--|
| <input type="radio"/> 問題意識を持たせる | <input type="radio"/> 自分との関わりで考えさせる |
| <input type="radio"/> 多面的・多角的に考えさせる | <input type="radio"/> 人間としての生き方について考えさせる |

中学校3年生 C-(18) 国際理解, 国際貢献 「海と空-樫野の人々-」のポイント

<ねらい> 国によってものの感じ方や考え方, 生活習慣などが違っていても, どの国の人々も同じ人間として尊重し合い, 差別や偏見を持たずに公正・公平に接しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

導入

道徳的価値の理解を基に・・・

① <問題意識を持たせる> ② <自分との関わりで考えさせる>

- ・事前アンケートを活用し, 外国の人々との関わりについて身近な問題として考えさせる。
- ・生徒の身近に起こりうる具体の場면을提示し, 自分だったらどのように行動するのかを考えさせる。
- ・現時点での国際理解, 国際貢献についての考え方を確認させる。

③ <多面的・多角的に考えさせる>

- ・樫野の人々がなぜ, ありったけの食料を提供してトルコ人を助けたのかについて, ペアや全体で話し合う活動を通して多面的・多角的に考えさせる。

(中心的な発問)

- ◎樫野の人々が, ありったけの食料を提供してトルコ人を助けたのはなぜだと思いますか。

④ <自分との関わりで考えさせる>

- ・樫野の人々の行動が容易にできることではないことを, 自分との関わりで考えさせる。
- (発 問) ○あなただったら, 樫野の人々のように行動できると思いますか。

⑤ <多面的・多角的に考えさせる>

- ・補助発問を通して, 広く世界に目を向け, どの国の人々とも国や文化を越えて互いに尊重し合い, 助け合うことの大切さに気付かせる。

(補助発問)

- エルトゥールル号の遭難事故のような出来事がなかったら, 良好な関係はできなかったのでしょうか。
- トルコとだけ良好な関係が築ければいいのですか。

⑥ <人間としての生き方について考えさせる>

⑦ <自分との関わりで考えさせる>

- ・世界の人々と関わる時に大切なことについて, 事前アンケートに再度触れ, 実際に外国の人々と関わる場면을イメージさせて考えさせる。

展開

終末